第6学年　道徳科　学習指導案

1　主題名　法やきまりを守って　C(12)規則の尊重

2　教材名　「ここを走れば」『道徳6　きみがいちばんひかるとき』:光村図書

3　主題設定の理由

(1)　　ねらいとする価値について

高学年の児童は，規則やきまりは，みんなが守らなければならないということは理解している。しかし，日常生活において，いつでもどこでも規則やきまりを守るということはできていない。他に大切なものとの中で揺れ，規則やきまりともう一つのどちらを優先するか迷うこともあるだろう。また，「他の人もやっている」「少しくらいなら大丈夫」などという気持ちがあるときに守れないことがある。このような人間の弱さを受け入れた上で，どうしたらよいか迷う中でも，自他の生命や権利を守るためにこそ，規則やきまりを守ろうという意欲や態度が育まれるようにしたい。

(2)　　児童について

本学級は素直な児童が多く，学校や学級のきまりは守るべきものとして理解している。そして，最高学年として下級生の手本になろうと進んできまりを守ろうという風土が育っている。中には，地域の公園で，ルールを守れていない下級生に声を掛けたり，ゴミ拾いをしたりして，公園をみんなが過ごしやすい場所にしようとしている児童もいる。

一方で，学校生活では，遊びや行為に夢中になり，きまりを守るという意識が弱くなったり，教師がいないところでは守れていなかったりする児童も多い。

きまりやルールについて，叱られたくないから守るのではなく，何のためにきまりがあり，どうして守る必要があるのか深く考えさせたい。

(3)　　教材について

教材のあらすじはおよそ，以下の通りである。

> おじいさんが倒れ，父の運転で病院へ向かったが，高速道路で渋滞に遭った。路側帯を走っていく車を見て，妹と「ぼく」はここを走れないのかと聞くが，父は規則を守った。病院に着くとおじいさんは亡くなった後だった。路側帯を走っていればと思ったが，父の涙を見て，はっとした。
>
> （光村図書『小学校道徳　学習指導書　6年（朱書編）』P127～130より）

で，場合によっては規則を守らなくともよいのではないかという迷いが生じるということをおさえる。その上で祖父の死に間に合わず，悔しい気持ちでいっぱいではあるものの，規則は守らねばならないという強い意志を示した父の姿から規則を守ることの意義について気付かせたい。

4　本時の計画

(1)　　本時のねらい

規則尊重の大切さについて，危篤の祖父のもとへ向かうときに交通規則を守るかどうかを話し合うとともに，法を守ったことで祖父の死に間に合わなかった父の気持ちを考える活動を通して，法や規則の意義を理解し，それらを進んで守ろうとする判断力と心情を育てる。

(2)　　本時の構想

1　導入でアンケートを取り，規則やきまりを守らなければならないけど，ときには迷いが生じることに気付かせることで学習課題をつかませる。【生活レベルに落とす】

ロイロノートを用い，リアルタイムでアンケートを実施する。

> *休み時間，遊びに夢中になり，授業に遅れそうです。あなたは，廊下を走りますか。*

回答は，「走る」「迷うけど走る」「迷うけど走らない」「走らない」の4つから1つ選択させる。教材の葛藤の場面と関わりがありながら，（授業に間に合いたいけれど，廊下を走ってはいけない）（おじいちゃんに早く会いたいけれど，路側帯を走ってはいけない）身近な例で問い掛けることで，子ども達の意欲を高めつつ，自分と登場人物を重ねながら教材を読むことを促す。きまりが大切だと分かっていても，授業に間に合いたいという気持ちとの中で迷いが生じることを押さえ，学習課題をつかませる。

2　「自分だったら路側帯を走ろうと言うか」を問い，一人一人の考えを出し合う中で道徳的価値や人間の弱さなどについておさえる。【自分ごととして考えさせ，葛藤させる】
　資料を分割提示し，まずは数台の車が路側帯を走っていく場面までを提示する。そして，この場面で上記の発問をする。
「言う」「迷うけど言う」「迷うけど言わない」「言わない」の4つから選択し，ロイロノートで色分けし，提出箱へ自分の立場を提出させる。立場をはっきりとさせた上で1人1人の考えを発表させることで，家族（祖父）への愛情，規則は大切だと分かってはいても守れないことがあるという人間の弱さ（人間理解），規則やきまりを守ることの大切さについておさえる。

3　間に合わなかった父は後悔しているのかを問い，きまりや規則の意義について深める。
【父の姿から本時でねらう道徳的価値の大切さに迫らせる】
　祖父の臨終に間に合わなかった父が涙を流す場面で，後悔しているのかどうかを問う。その中で，児童から，祖父の思いや他者の命，社会の秩序など，多面的な側面からの考えを促す。それによって，父には複雑な思いがありながらも，それでもきまりを守り通したことについては間違っていなかったと考えているということを引き出せるようにする。

(3)　本時の展開

学習活動	教師の働きかけと予想される児童の反応	○留意点　■評価
導入 1　アンケートの結果から，迷いが生じることに気付き，学習課題をつかむ。 7分	T1：ロイロノートでアンケートを送ります。 *休み時間，遊びに夢中になり，授業に遅れそうです。あなたは，廊下を走りますか。* C1：結構走ってしまう人が多いね。 T2：走ってしまう人，結構いますね。迷っている人はどのくらいいますか。 C2：迷う人も結構いるね。 T3：どうして迷うのかな。 C3：このままでは，授業に遅れてしまうから。 C4：廊下は走ってはいけないけど，遅れたら困るから。 T4：迷ったときなら，きまりを破ることは許されるのかな。 C5：迷ったときでもダメ。 ＜学習課題＞ 迷ったときでもきまりを守らなければいけないのはなぜか。	○　ロイロノートでアンケートを送る。 1　走る 2　迷うけど走る 3　迷うけど走らない 4　走らない ○　どうして迷うのかを問うことで授業に遅れたくないという気持ちがあり，葛藤することを確認する。
2　教材の前半を読み，自分が「ぼく」だったらどうするか考えを出し合う。	教材の前半を読む。教科書は開かせない。 （P.129.L.3　数台の車が路側帯を走り抜けていく場面まで） T5：自分だったらこっちの道を走ろうと言いますか。 　カードの色を変えてロイロノートで送りましょう。	○　要点をスライドで提示する。 ○　法律に反すると罰を受けることを教える。

11分	1　言う　　（赤） C6：このままでは間に合わないから。 C7：おじいちゃんの命が大事だから。 C8：他にも何台か走っている車がいるから。 T6：他の人につられてしまう気持ちが分かりますか。 C9：分かります。 C10：授業も自分以外に遅れている人がいると自分一人のときと比べて，まあいいやと思ってしまいます。 T7：そうですね。先生もその気持ちよく分かります。自分一人だととっても恥ずかしいし，目立つけど，他にもいれば安心してしまいますよね。 2　迷うけど言う　（ピンク） C11：きまりは大切だけど，どうしてもおじいちゃんに会いたいから。 C12：法律も大切だけど，やっぱりおじいちゃんの方が大切だから。 C13：生きているうちに話がしたいから。 3　迷うけど言わない（水色） C14：おじいちゃんに会いたいけれど，法律を破ることはできないから。 C15：そんなことを言うと，父に叱られるかもしれないから。 T8：2番と3番の人はどうして迷うのかな。 C16：本当はやってはいけないことだから迷う。 C17：おじいちゃんにはどうしても会いたいから。 C18：おじいちゃんも法律も両方大切だから迷う。 4　言わない　　（青） C19：罰金になってしまうから。 C20：他の車の迷惑になるから。 C21：自分のせいで事故が起きたら困るから。 C22：もしも，警察に捕まったら時間がかかるから。 C23：どんどん他の車も真似をすると困るから。 C24：おじいちゃんは人に迷惑をかけることを嫌う人だから。	○　時間捻出のため，カードの色を変えて送らせる。理由は書かせず，発表のときに言わせる。 ○　気持ちを問うことで生活経験を想起させ，他の人につられてしまうという人間の弱さを引き出す。 ○「1言う」の立場の児童から聞いていき，「家族愛」「規則の尊重」「人間理解」に関わるキーワードを板書する。 ○　適宜，ペアワークを取り入れ，友達の意見を聞いてどう思ったか表出させる。
3　教材の後半を読み，父は後悔しているのかを考え，話し合う。 21分	教材の後半を読む。 T9：あと少し早く着いていたら生きて会えたのにね。 C25：きまりを守ったから，間に合わなかったんだね。 T10：（父の涙の場面で）お父さんはきまりを守ったことを後悔しているのでしょうか。 C26：おじいちゃんに会えなくて悲しい気持ちは強いと思う。 C27：お父さんこそ会いたかったと思う。だから少しは，もしもきまりを破っていればという気持ちはあったはず。 C28：悔しい気持ちもあるけど，どちらかと言えば，きまりを守ってよかったと思っている。 C29：おじいちゃんは人に迷惑をかけることが嫌いだから，きまりを守り通したことに後悔はないと思う。 C30：みんなが我慢してきまりを守っているのだから，自分だけ許されることはない。 T11：みんな我慢しているということは，きまりなんてない方がいいんじゃないの。例えば赤信号だって嫌だよね。車もスピード出し放題ならすぐ到着できるし。 C31：きまりがないと，もっと事故が起きる。 C32：いつ車が来るか分からないと怖い。 C33：それだと安心して道路を歩けない。 C34：もしも，きまりを破っていたら事故が起きたかもしれない。そうしたら，他の人の命がなくなっていたかもしれない。	○　教材の後半から最後までを同じようにスライドで確認する。 ○　ペアワークで考えを伝え合わせる。 ○　少しは後悔しているという考えから，祖父への思いにも気付かせる。 ○　最初は後悔していると答える児童がいるかもしれないが，後悔していない児童に理由を言わせることで後悔していないという考えに導く。 ○　必要に応じて，問い返しをし，規則やきまりの意義

	T12：1人くらい破っても事故は起きないんじゃないのかな。 C35：1人が破ると，みんなが破るようになると思う。 T13：周りの人にも広がってしまうんだね。 C36：みんなが破ったら事故が起きてしまう。 C37：1人1人がきまりを守ることが大切。そうすれば，みんなの安心，安全が守られる。 T14：自分だけなら許されるでは，困るんだね。 T15：もう一度，色だけ新しい提出箱に送ってください。 自分だったらこっちの道を走ろうと言いますか。 T16：考えが変わった人もいますね。どうして変わったのでしょうか。 C38：自分一人でも破ると，みんなが守らなくなってしまうと思ったから。 C39：安心・安全のためには，みんなが守ることが大切だと思ったから。	を引き出す。 ○ 意見を「安心」「安全」に繋げる。 ○ 1回目と2回目の提出箱をスクリーンショットに撮り，比較することで，考えの変容を視覚化し，その理由を問う。
4 学習のまとめをする。 3分	T17：今日の学習をまとめましょう。きまりを守るときに迷うことがありますね。これはおかしいことなのでしょうか。 C40：それはおかしくない。他に大切なことがあって困ったり，ついつい人間の弱さに負けたりしそうになるもの。 T18：そうですね。でも，「みんなが仕方がない」と破っていてはいけないね。迷ったときでも，きまりを守らなければいけないのはなぜでしょう。 C41：きまりがみんなの安心・安全を守っているから。 C42：自分勝手な人がいると広がってしまうから。 ＜まとめ＞ きまりがみんなの安心・安全を守っているから。 （みんなが守るからこそ意味がある。）	○ 迷いが生じることは誰にとっても自然なことであることをおさえ，児童の言葉を使ってまとめる。
5 本時の学習を振り返る。 5分	T19：今日の学習を踏まえて，振り返りを書きましょう。 C43：どうしたらよいか迷う気持ちすごくよく分かります。最初は，「迷うけど言う」にしたけど，みんなの安心・安全のためにやっぱりみんなが守ることが大切だと思いました。これからも迷うことはあるかもしれないけど，自分勝手なことをせず，きまりを守っていきたいです。 C44：きまりはみんなが守るからこそ意味があるということが心に残りました。確かに赤信号を無視する人ばかりだったら，青信号でも渡れないし，安心できないと思いました。きまりを守っていきたいし，6年生として手本となりたいです。	■ 法や規則の意義を理解し，それらを進んで守ろうとしている。 （ノート）

(4) 本時の評価

法や規則の意義を理解し，それらを進んで守ろうとしている。（ノート）

7 参考文献・資料

・光村図書『小学校道徳 きみがいちばんひかるとき 学習指導書 6年（朱書編）』
・文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編』